

皆様、ため込んでいたお話しする内容を少し吐き出していきたいと思います。

今回は、コロナ禍におけるがん診療についてです。

学会等様々なところからのメッセージが web 上でアップされていますが、なかなか目にされないと思いますので、かいつまんで私がここでお知らせしたいと思います。

まず、大前提ですが、『がん診療』は不要不急というカテゴリーには入りません。

当たり前ですが、『**がん診療は、基本的に普段通りに行う**』というのが原則になります。

例外的に急がなくていいのは、経過観察の場合です。

経過観察指示を医療者から受けている場合、基本的に『**がんで体が被害を受けていない状態**』ということになります。

例えば3ヶ月おきに CT など画像検査を受けてきた方が、例えばそれを4ヶ月おきに検査するようにすることは許容されることと思います。

一方、現在『がん治療』をうけている方はどうでしょう？

治療を遅らせることで、体調の悪化につながることは容易に想像がつくのではないのでしょうか。

何らかの治療は続ける必要があると考えます。例えば、手術予定だった方を、他の治療、例えば薬物治療を先にしてから後日手術にするといった工夫が必要になることはありえます。薬物治療で免疫力がおちて、新型コロナにかかりやすくなるのでは？重症化するのではないかと？そういう不安を感じられる方もいるかもしれません。

根拠のあるそうした報告は今のところありません。医療者としてもそうした懸念には配慮して治療計画を組むようにしています。

薬物の種類によっては全く免疫に関与しないものもあります。

ですので、過度に心配せず、気になるようなら今がん治療でかかっている医療者に心配事をお話しいただき、それを解消しながら治療を受けていただくのがよいと思います。疑心暗鬼はよくないと思います。

屋内生活や制限された中、どうしてもマイナスに考えるイメージがつきやすくなると思いますが、少しでも心にゆとりが持てるように力添えしていきたいと思いますので、安心してがん治療を継続されるよう強く願っています。

では、また。